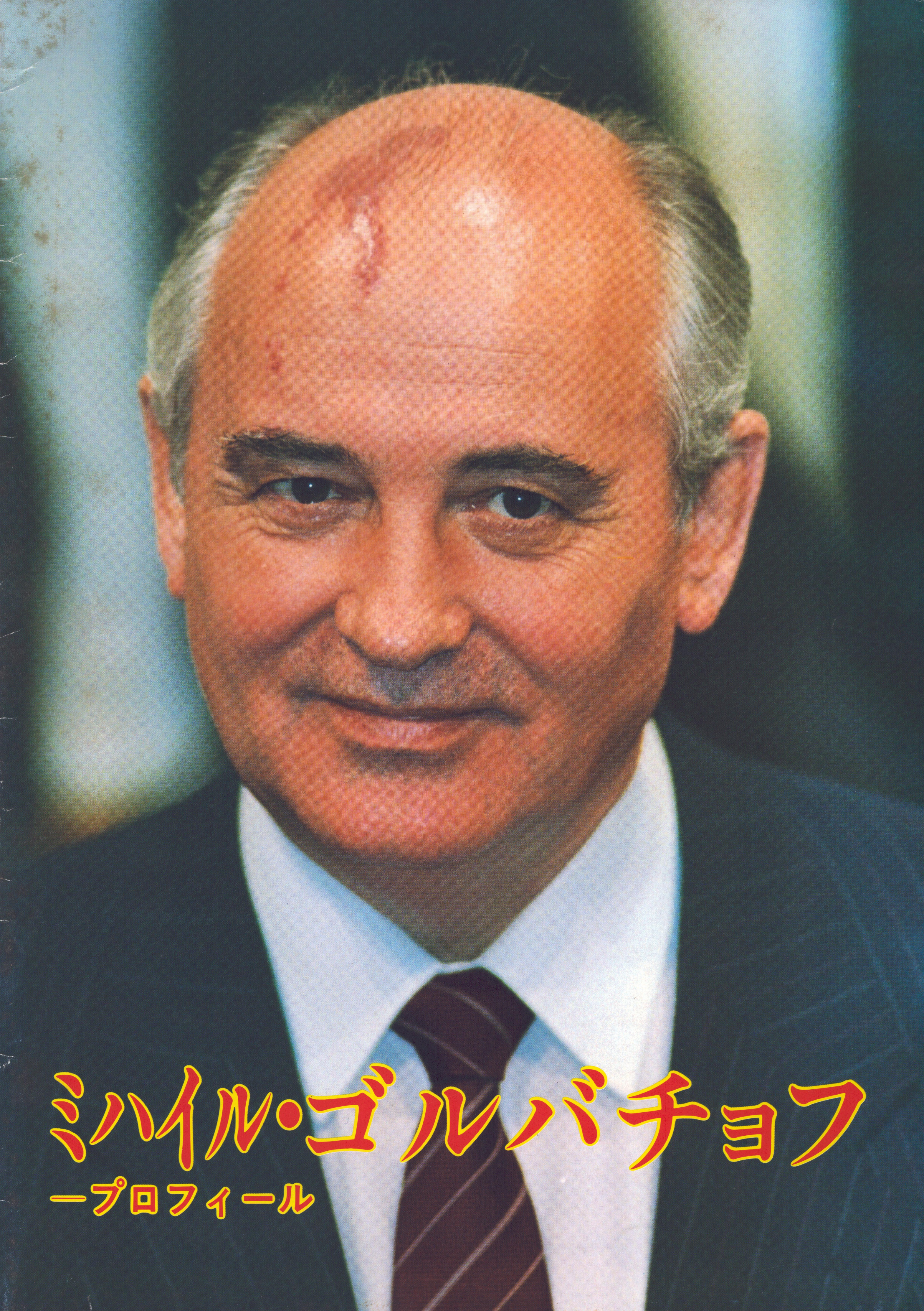


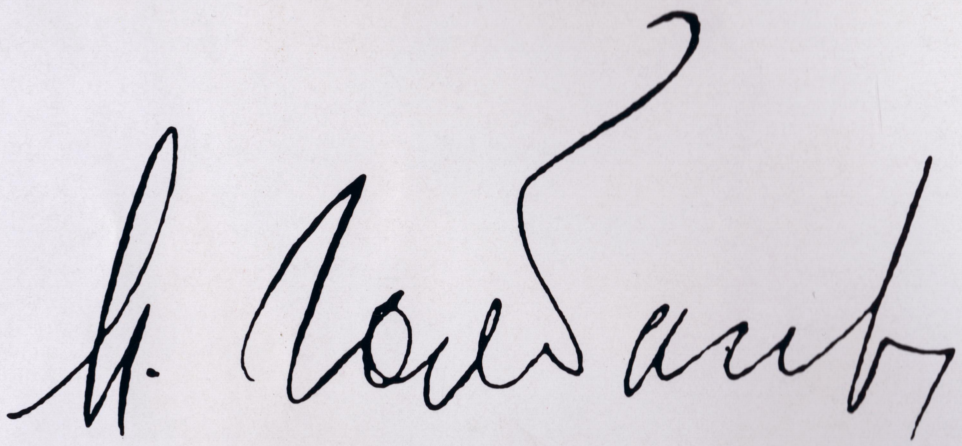
# ミハイル・ゴルバチョフ

## ープロフィール

私たちは誰もが生徒であり、現実、時代が教師となる。私は信じている。つまり、理解は広がるだろうから、ペレストロイカの結果、この言葉の広い意味で世界は親密になるだろう、と。私たちはこの現実という主任教師から高い評価をもらい、十分に心の準備をしつつ、進歩のつづくことを確信しつつ21世紀へと入って行く。

次のきたるべき世紀には、世界の隅々にまで自由が横溢してほしいと願っている。異なる社会体制の平和的競争がのびのびと展開され、この競争が対決や軍拡競争ではなく、互恵協力を興隆させることを願っている。どの国民も豊かな暮らしを享受し、つつがなく、幸せになるように願ってやまない。そこへいたる大道は、非核、非暴力の世界へ向かうことによって切り開かれる。私たちはこの大道を進みながら、そのほかの国民も国もこの大道を進むよう呼びかける。

M・ゴルバチョフ





## ミハイル・セルゲーエヴィチ・ゴルバチョフの略歴

ソビエト社会主義共和国連邦大統領、ソ連共産党中央委員会書記長のミハイル・セルゲーエヴィチ・ゴルバチョフは、1931年3月2日、スタヴローポリ地方プリヴォリノエ村に生まれた。

1955年、ロモノーソフ記念モスクワ国立大学法学部を卒業。1967年、スタヴローポリ農業大学経済学部の通信教育を終了。1952年、ソ連共産党に入党。

13歳から働き始め、定期的にコルホーズの仕事をするようになった。15歳のときから農業機械・トラクター・ステーションのコンバイン運転士の助手をつとめる。モスクワ大学卒業後、スタヴローポリで活動した。初めは法律関係の仕事をしていたが、その後コムソモール（全ソ連邦共産青年同盟）スタヴローポリ地方委員会情報・宣伝部副部長、同スタヴローポリ市委員会第一書記、同地方委員会第二、第一書記を歴任する。

1962年3月、ソ連共産党スタヴローポリ農務局地方委員会の党オルグ、同年12月から同スタヴローポリ地方委員会党機関紙・誌部の部長。

1966年9月、スタヴローポリ市党委員会第一書記、1968年8月、ソ連共産党スタヴローポリ地方委員会第二書記、1970年4月、同第一書記。

1978年11月、ソ連共産党中央委書記に選出される。1985年3月、ソ連共産党中央委書記長。1988年10月、ソ連最高会議幹部会議長。1989年5月、ソ連最高会議議長。

1990年3月15日、ソビエト社会主義共和国連邦大統領。

1990年7月10日、ソ連共産党第28回大会で党中央委書記長に再選される。

レーニン勲章3回、十月革命勲章、労働赤旗勲章、栄誉勲章、メダル数個を授与される。

1990年、ノーベル平和賞を授与された。

◇　◇　◇

ゴルバチョフ大統領の公式の経歴は以上のとおりである。大方の日本国民の希望をくんで、大統領のこれまでの生活のなかから若干の事実と写真を紹介する。

◇　◇　◇

ゴルバチョフ大統領は、南ロシアのステップ地帯スタヴローポリに昔から住みついていた生粋のロシアの農民家族の出身だ。

祖父パンチェレイ・エフィーモヴィチは革命後まもなく、自発的な農業協同組合の組織者として当地では有名だった。30年代にコルホーズの議長になった。土地の住民たちのあいだではよき指導者にしてよき経営者との評判だったが、「人民の敵」の烙印を押されるこ



生地に母を訪ねる



若き日のミハイルとライーサ

くつろぎのひととき



とから免れることはできなかった。彼は逮捕され、1年半身柄を拘束された。「祖父はあらゆる拷問を受けた後、1939年に帰ってきた。私たちは終日にわたって祖父の話を聞き、その身の上に起こったことに話がおよんだときは、家族全員が声を上げて泣いた。しかし、その後、祖父がこの話を蒸し返したことは一度もなかった」と、M・ゴルバチョフは語っている。ゴルバチョフの祖父についての個人的な思い出は、孫に贈ってくれたフェルトの長靴だ。このおかげで、ゴルバチョフはこの冬の学業をつづけることができたのである。この長靴がなかったら、村から15キロメートルもある学校までたどり着けなかっただろう。

ゴルバチョフは農業労働の尊さを早くに知った。父セルゲイ・アンドレーエヴィチは大祖国戦争に工兵として出征し、コルホーズの機械化技術要員の仕事に戻ってきた。その父親を息子は13歳のときから手伝い始め、15歳のときはコンバイン運転士の助手として働いた。初めての労働赤旗勲章を授与されたのは18歳のときだった。

周囲の人たちの話によれば、ゴルバチョフの精神的な発達に大きな影響をあたえたのは母親のマリヤ・パンチェレーエヴナだったようだ。「どんな事態に陥っても、活路はかならずあるものです。この事態を変えることができないなどと、悪い方に解釈してはいけませんよ」と、母は息子に教え諭した。

79歳になるマリヤ・パンチェレーエヴナは今、プリヴォリノエ村の自宅に暮らしている。あるとき、モスクワまでお客にやってきたが、そそくさと帰ってしまった。村の人たちにはこんな風に説明していた。「彼の姿がどこにも見当たらないの。朝は6時に出かけ、真夜中にならないと戻ってこないんですから」

マリヤ・パンチェレーエヴナは家事は自分でする。パンは自分で焼き、村の店では買ったことがな





い。

プリヴォリノエ村には同郷から知名人を出したことを示す印はいっさいない。ジャーナリストがここで目にすることのできる唯一の興味ある材料は、ゴルバチョフの学校の成績表だ。ソ連の学校で採用されている5段階評価によると、彼の成績はほとんど5ばかり、ドイツ語だけは4で押し通している。銀メダルをもらって卒業した。

かつての同級生たちの思い出によると、ミハイル・ゴルバチョフは演劇サークルに積極的に加わり、なかでもとくに彼らの印象に残っているのは、ゴルバチョフが中心的な役を演じたオストロフスキーの『白雪姫』とレールモントフの『仮装舞踏会』だと言う。

1950年、ゴルバチョフは生地を離れた。学業をつづけるため、ソ連では教育ランク1位のモスクワ国立大学は法学部を選んだ。彼はみごと入学試験の難関を突破したが、一張羅を着込んでモスクワに乗り込んできたこの若者の小型の旅行鞄の中に「元帥杖」が入っていたとは、当時は誰一人想像もできなかった。仲間や教師たちは、生まれつきの頭の良さと強い知識欲が目だつ有能な学生だとしか彼のことを見ていなかった。ある同級生によれば、ゴルバチョフの特徴は共産主義者としての信念と官僚への憎悪とを結びつけていたことだとしている。ある人たちは、彼が勲章をもらったことがあると一度もひけらかしたことがなかったとおどろいている。こうしたことも、教師たちから好意を抱かれる原因になったに違いない。しかし、彼は何事もみずからの働きによって手に入れるという信念を曲げたことがなかったのである。大学における学業の5年間ずっと、コムソモールの活動をつづけた。1952年、ソ連共産党に入党した。

ゴルバチョフはあるとき、ワル

レニングラードの労働者と話合う(1987年10月)





クラスノヤルスク地方の化学繊維コンビナートにて(1988年9月)



ウラジオストク(沿海地方)の商業中心地で(1986年7月)

ロシア正教会の長、アレクシー2世モスクワ・全ロシア総主教と会う(1990年6月)

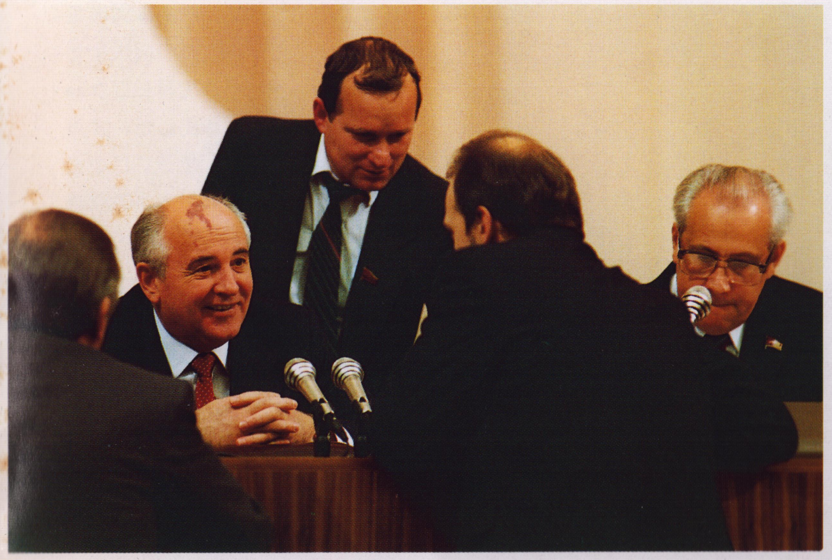




若いときにコンバインのハンドルを握ったことのある大統領は新しい農業機械への関心は尽きない(1988年9月、クラスノヤルスク地方)







ようやく２年目を迎えた新生民主主義国会(最高会議)の会議場風景。議事運営はかならずしもスムーズにはいかない。多くは元最高会議議長だったソ連大統領の双肩にかかってくる。もっとも重要な問題から解決して行くように代議員たちの方向を定める。





初代大統領の宣誓(1990年３月)

国連総会で演説(1988年12月、ニューヨーク)







ツに夢中になっているある同級生をからかいながら、その同級生といっしょにダンスの練習が行なわれている教室へ顔を出した。すると、……万事休す、思わず目が止まったのが、独立心と文化的欲求の旺盛なことで学内でもその名を知られた哲学部の学生ライーサ・チタレンコだったのだ。彼女には崇拝者がわんさといた。その数多いるなかから最後に一頭地を抜いたのが、感じのいい顔の二十歳のこの若者だった。芸術、文学、歴史といった彼女がとくに興味をもっていた分野の知識は不十分だったが、何でも知ってやろう何でも吸収してやろうとする彼の意欲はその不足分を補って余りあった。1953年の初頭、2人は結婚した。披露宴は学生食堂で行なわれた。

　かなり長いあいだ、2人には自分たちの住処がなかった。1955年、ゴルバチョフ夫妻はスタヴローポリにやってきて、部屋を借りた。この部屋は夏場向きだったので、まもなく生まれた娘のイリーナはよく風邪をひいた。女家主は借家人を気の毒に思い、自分のフラットを借家人に開放してやった。ライーサ・ゴルバチョワはこの婦人に対する感謝の気持ちを生涯もちつづけている。

　ライーサはすでに大統領の妻として社会の注目の的になっている。そのため、彼女の人生の出発点については新聞や雑誌ではあまり広くには紹介されていない。わかっていることは、彼女は生粋のロシア人であること、シベリアのルブツォフスク市で生まれたこと、父親は鉄道技師だったことだ。学校は金メダルをもらって卒業した。

　スタヴローポリでは、ライーサ

ハーヴァーノース・アイランドを散策するブッシュ、レーガン、ゴルバチョフ(1988年12月、ニューヨーク)

ワイツゼッカー西独大統領官邸での歓迎式にのぞむ(1989年6月)





ＩＮＦ条約調印の歴史的瞬間(1987年、ホワイトハウス)

は教鞭をとっていた（彼女はあとで、この仕事を「世界最良の仕事」だと言っている）。教鞭をとりながら学位論文に取り組んだ。論文のテーマは農民の風俗の変遷の調査だった。1967年、モスクワ教育大学でこの学位論文の公開審査を受けた。

60年代の末、地方党リーダーの地位に就いたゴルバチョフは、専門知識の必要を痛感し、当時自分の妻が哲学を教授していたスタヴローポリ農業大学経済学部の通信教育部に入学した。当時を知る人たちは、彼は学生たちのなかでもっとも勤勉だったこと、職業上の問題について学生たちとの激しい論争を辞さなかったことを記憶している。

記者団から女性としての私的な質問をされたライーサ・ゴルバチョワは、つつましやかにこう答えている。好きな食べ物はペリメニ(ロシアのギョウザ)。衣服はオーダーメイドによらず、勧められたなかから自分の好きなものをえらぶ。クラシックな裁ち方が好き、色にはこだわらない。デザイナーのタチヤナ・モケーエワにお世話になっている。好きな服はジャケット、ズボン、ウォーキングシューズ。

文化や芸術に関するものは何でも大好き。ジュネーブ大学では、哲学と物理学の関係について話し出し、聞いていた人たちをびっくりさせた。フランスでは、印象派の絵画を鑑賞し、大変ユニークな意見を述べている。趣味は読書。

1985年、つまりゴルバチョフがソ連共産党中央委員会書記長に就任する瞬間まで、ライーサはモスクワ大学で教えていた。現在は、創設者の１人としてソビエト文化基金の理事をしている。これまで要人の妻が独自に社会的な発言をするパターンはわが国では異例のことだった。

1978年、ゴルバチョフ一家はモスクワに移り住んだ。国営の住居と別荘をもっている。ソ連大統領

イタリア訪問中（1989年11—12月)、ローマ法王ヨハネ・パウロ２世と会談



コール西独首相のソ連公式訪問（1988年10月、モスクワ・クレムリン大宮殿のゲオルギエフの間にて）





訪ソしたメージャー英国首相を迎え入れるゴルバチョフ大統領(1991年３月、モスクワ)




欧州通常戦力削減文書の調印にこぎつけた全欧パリ首脳会議(1990年11月)

ブッシュ大統領との話合い（1990年５－６月）はソ米関係を建設的なパートナー関係に変えた





中国を公式訪問中、万里の長城に登る（1989年５月）

の月給は4000ルーブルと定められている。原稿料はすべて社会・慈善基金に納めている。これまででもっとも大口の寄付としては、スタヴローポリ地方の地区病院に40万ドルが振り込まれている。さらに二つの小児病院に45万ドル、スモレンスク市のワシーリー・チョールキンの記念碑建造に５万ドル、モスクワの児童公園の造園に20万ドル、アルメニア、タジク、そのほかの自然災害の被災者に20万ドル贈られている。

ゴルバチョフ夫妻が外国で受け取る贈り物はモスクワの中央革命博物館に寄贈される。特筆すべきことは、1985年以前にこの博物館に高額の寄付金があったのはブレジネフの生誕70年のときの１回だけだったことだ。ゴルバチョフが書記長のポストに就いてから、新しい物件1421点がこの博物館に登録されている。

ゴルバチョフ夫妻には娘のイリーナがいる。イリーナはスタヴローポリの医科大学を卒業した。ここで将来の夫となるアナトーリーと知り合った。1978年、２人は両親といっしょにモスクワに移り、モスクワ大学で学業をつづけた。夫婦には11歳のクセーニヤと３歳半のアナスターシアの２人の娘がいる。イリーナは医学博士候補の学位論文にパスし、医学統計学研究所で働いている。功名心がまったくないので、これ以上の学問的な出世は考えていないと断言している。1990年、学生のとき以来初めて、スイスの世界保健機構主宰のゼミナールに出席するため６日間の海外旅行をした。

ゴルバチョフの娘婿（医学博士候補）は、モスクワ市立第一クリニック総合病院で臨床外科講座の助教授をしている。熱心なオーナードライバーの彼はソ連製のジグリを乗り回している。ゴルバチョフが米国から贈られたリムジンは、モスクワのレーニン・コムソモール記念自動車工場の博物館に寄贈され、アナトーリーは触ることもできなかった。





中山外相を迎えて（1991年１月、モスクワ）



土屋義彦・参院議長を団長とする参議員代表団と会談（1991年１月９日＝写真は朝日新聞社提供）



1991年３月25日の小沢一郎・自民党幹事長との会談の模様